



木下恵介記念館 No.18 2016.8.1 発行

# 栄町だより

Keisuke Kinoshita Memorial Museum

公益財団法人 浜松市文化振興財団  
発行：木下恵介記念館  
〒432-8025 浜松市中区栄町3番地の1  
TEL&FAX 053-457-3450  
E-mail : kinoshitakan@hcf.or.jp  
http://www.hcf.or.jp

4月より館長になりました瀧口裕章と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

## 木下忠司百寿記念企画展示 忠司の生誕から映画音楽家としての生涯を紹介

### 1 記念館では忠司氏の100歳を記念して6/1から特別展を企画

4月9日に、浜松市出身の映画音楽家・木下忠司氏（1916～）が満100歳を迎えたことから、当記念館では6月1日より「木下忠司百寿記念特別企画—木下忠司 映画音楽の世界—」を開催しています。

木下忠司氏は、これまでに400本以上の映画作品の音楽を担当し、兄の木下恵介作品の音楽を始めとする松竹時代の作品や東映動画の日本初長篇カラーアニメーション『白蛇伝』、東映の任侠映画や『トラック野郎』シリーズなど、ラブ・ロマンス、喜劇、スリラー、アクションからドキュメンタリー、PR映画まで多岐にわたっています。その音楽ジャンルもマーチ、ジャズ、フラメンコ、ワルツ、シャンソン、流行歌や唱歌のアレンジまで幅広く、戦後の日本映画に最も多くの音楽作品を提供し、多彩な活躍をした映画音楽家です。

この度の特別記念企画を通じて、兄と共に戦後の日本映画の隆盛を支えた木下忠司氏の音楽の魅力とその業績を、多くのみなさまにお伝えしていきたいと思ひます。

### 2 展示内容

- ①パネル上部に展示された400本以上ある映画音楽の系譜のボード
- ②生まれ育った昭和初期の浜松の様子や恵介との思い出
- ③一中時代の出来事と出会った尾崎宗吉氏との思い出
- ④中国へ従軍中に送られてきたプロマイドの逸話
- ⑤終戦後、映画音楽との出会い
- ⑥映画音楽家として活躍する忠司氏
- ⑦童話アニメ全集でミラノ国際児童映画祭グランプリ受賞した額とユネスコの感謝状
- ⑧様々な分野のレコードジャケット等



①～⑥パネルによる紹介



⑦「海の聲」楽譜と額



⑧レコードジャケット等

### 記念館のホームページを更新

※木下忠司氏のインタビュー映像を追加

- ①百寿を迎えられたお気持ち
  - ②兄恵介監督との思い出
  - ③生まれ育った浜松について
- 4分ほどに編集したインタビューをホームページに載せました。

清里のお家でインタビューさせていただきました。当時を振り返っての一言や浜松の人への言葉から忠司さんの温かい人柄を伺い知ることができます。

平成28年6月1日(水)～11月30日(水)

木下恵介監督の実弟で作曲家・映画音楽家である木下忠司さんが平成28年の今年百寿を迎えられました。

1946年に兄の木下恵介監督作『わが恋せし乙女』で映画音楽家としてデビューし、以後松竹・東映を中心に、動物活劇の作品や文化映画『アニメーション』など幅広く手がけられ、『女の園』この広い空のどから『吾輩は猫である』の音楽賞を受賞、映画『喜びも悲しみも幾歳月』やTVドラマ『特捜最前線』『水戸黄門』の主眼歌でも有名な木下忠司さん。

百寿を迎えられたお気持ち、兄恵介監督との思い出、生まれ育った浜松について語っていただきました。約49分の短いインタビューですが、ご覧ください。

Kinoshita Chuji Special Interview

一つだけ恵介の顔があるんですよ

■上映予定

【何の上映会】「世界四国展」邦画・洋画  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後6時 14:00～

【何の上映会】「邦画展」  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後6時 14:00～

【何の上映会】「文化の府」  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後6時 14:00～

※各回開演は30分前です。  
※雨天(雨)の場合は観覧料を返金いたします。

≪イベント案内≫  
●映画祭の上映会  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後7時 19:00  
チケット 500円  
(木下恵介記念館にて販売中)

●木下恵介監督の映画展  
木下恵介 映画展の開幕  
●特別企画  
木下恵介映画展特別展  
【木下恵介 映画展】  
平成28年(日)10日～11月30日(水)

●特別企画  
映画展の上映会  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後6時 14:00～  
【映画展の上映会】  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後6時 14:00～  
【映画展の上映会】  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後6時 14:00～  
【映画展の上映会】  
平成28年(日)10日  
午後1時 10:00～ 午後6時 14:00～

# 上映作品の余韻

## 『風前の灯』

高峰秀子と佐田啓二がこれまでの木下作品での役柄とはガラリと変わってケチで強欲な夫婦を演じている。

「喜びも悲しみも幾歳月」のパロディー版であるが、セリフごとに変わる高峰秀子の表情が面白い。夫役の佐田啓二のいいかげんさが見もの。てつ婆さんの蓄えを狙った3人の窃盗団のドタバタもさらに画面を賑やかにしている。



©松竹 1957



©松竹 1958

## 『わが恋せし乙女』

恵介監督の実弟忠司が映画音楽家としてデビューした作品。兄恵介から主題歌「青春牧場」のサトウハチローの詩に作曲を依頼された。この作品からこの兄弟コンビは次々と名作を世に送り出すことになる。主題歌が高原で歌われるシーン、馬車で祭りに向うシーンでテンポよく使われている。血の繋がらない妹への優しい兄の悲恋物語である。

## 『父』

40歳を過ぎてても薩摩隼人きどりで家族に迷惑を掛けてばかりいるキャラクターで能天気な親父を映画初出演の板東英二が好演。

息子役の野々村真は親父の行動を諦めつつも、次は何をやってくれるか、半分期待している。妻役の太地喜和子もそんな親父に愛想もこそも尽き果てるが、スッパリと別れられない。いつまでも気になり世話を焼いている。婆さん役の菅井きんも、とぼけた表情で笑わせる等しい味を出している。



©松竹 1988

館長 瀧口裕章

## 上映予告



7月～10月の館内月例上映会では、次の木下監督作品を上映します。また、9月4(日)には、木下忠司百寿記念特別企画として木下監督の『野菊の如き君なりき』の上映会・講演会を予定しています。※詳しくは当記念館イベント案内をご覧ください。

## 7月～10月のイベント案内

### 7/17(日) 新釈・四谷怪談



©1949 松竹

貧乏で失業侍である伊右衛門が生活のためにお岩を犠牲に。新釈で大胆に表現

### 7/24(日) 楽隊のうさぎ

#### 地元応援イベント

13:00～「楽隊のうさぎ」の上映

14:50～原作者・中沢けい氏とキャストのトークショー

©2013「楽隊のうさぎ」制作委員会

地元浜松を舞台に中学生吹奏楽部の成長を描く。”色とりどりの音の粒が、今、ひとつの音楽になる”

### 8/21(日) 少年期



©1951 松竹

東京から信州に疎開した一家の中で揺れ動く少年の心情を表現

### 9/4(日) 野菊の如き君なりき



©1955 松竹

原作伊藤左千夫の小説「野菊の墓」を映画化。楕円形のスクリーン表現に挑む

### 9/18(日) この天の虹



©1958 松竹

八幡製鉄所を舞台に様々な職種に従事する社員の暮らしと恋愛を描く

### 10/16(日) 二人で歩いた幾春秋



©1962 松竹

つつましく生きる夫婦の姿を永遠に残る作品に仕上げた